

海洋プラスチックごみ対策に タイと日本が協力



タイの海岸に漂着した海洋プラスチックごみ。

2020年2月27日、JICAはタイ政府との間で、海洋プラスチックごみ軽減のための科学技術協力実施に関する合意文書の署名を取り交わした。20年中に、両国の研究機関による共同研究が本格的に始まる。

海洋に流出するプラスチックごみについては近年、生態系への影響や船舶航行への障害、観光・漁業への影響など、さまざまな被害が懸念されている。一方、流出経路・分布や海域における現存量、および海洋環境に与える影響といった実態は十分に解明されていない。

このような実態を解明する調査や研究に基づいた効果的な対策立案が世界的な課題であり、そのための体制の整備が求められている。こうした状況をふまえ、今回の協力ではタイ国内に研究拠点を設立し、海洋プラスチックごみの発生経路や海洋環境への影響などを総合的に調査する。調査で得られた科学的な知見に基づき、海洋プラスチックの削減に向けた政策提言を政府機関に行う。あわせて、タイでの取り組みを周辺諸国へと波及させ、東南アジア地域で効果的な対策が実施できるよう貢献することを目指している。

*地球規模課題対応国際科学技術協力(SAITECS)。地球規模の課題の解決に向け、政府開発援助(ODA)の枠組みを活用して日本と途上国の研究機関による共同研究を推進するプログラム。

ニュース深掘り! 科学的な根拠に基づきみんなが一丸となる

国際的な課題である海洋プラスチックごみ対策においては、環境対策の経験が十分でない途上国で効果的な取り組みを行うことが重要で、この分野の研究で世界をリードする日本が深刻な都市ごみ問題を抱えるタイと協力することには大きな意義があります。

共同研究の日本側研究代表を務めるのは、九州大学教授の磯辺篤彦さん。長年にわたりこの問題を研究してきた世界的な第一人者です。みなさんも心当たりがあると思いますが、プラスチックは日々の生活のなかに深く浸透しており、削減することは容易ではありません。だからこそ、持続可能で効果的な対策を行うためには、現状を正しく把握したうえで中長期的な計画のもとに一人ひとりが意識を高め、社会全体が丸となって取り組むことが欠かせません。

今回の事業を通じて、海洋プラスチックに関するさまざまな実態が明らかになるでしょう。その研究成果を対策に反映させるためには、タイ政府や現地の市民など多様な関係者を巻き込んで理解を得ながら、合意へ至ることが重要です。JICAが長年の協力で培ってきた現地とのネットワークを生かし、この大きな課題の解決に向けてしっかりとサポートしていきたいと思

地球環境部
小岩謙一郎さん
こいわけんいちろう

2016年入構。東南アジア・大洋州部を経て現職。おもにアジア・大洋州地域の廃棄物案件などを担当している。「これまでない大規模調査も上がっています。その気持ちに答えられるように、可能な限りサポートをしていきます」。



JICA HEADLINE NEWS

4月 6日 | ▶ **インド 低所得者の住宅ローン拡充に融資支援**

深刻な住宅不足の改善に向けて、国営銀行傘下の住宅金融会社に7,500万ドルを融資。

4月 1日 | ▶ **インドネシア 首都の下水道整備と地方の洪水対策を支援**

住民の生活・衛生環境の改善、水環境保全と、洪水リスクへの対応能力向上を図る。

4月 1日 | ▶ **ブラジル 持続的な林産業の支援に融資契約**

紙を含む林産品の増える需要に、二酸化炭素の排出量抑制を含め後押し。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>